



本学図書館では、下記の日程で各種ガイダンスを行いますので、気軽に参加してください。

全てのプログラムはどなたでも参加できます。わからないことがあれば是非この機会に質問してください。

	日 時	内 容	所要時間
1	4/12~4/16 ①10:50 ②15:00 ③17:00 ④18:15	「新入生歓迎ライブラリー・ツアー」 情報検索コーナー 閲覧室（グループ閲覧室・第4・第5閲覧室を含む） 書庫などの館内案内	約20分
2	4/19~4/23 ①15:00~16:00 ②17:00~18:00	「図書館利用の仕方」 資料の探し方 入手の仕方 データベースの使い方 参考図書について	約60分
3	5/6~5/28 随時 (土曜は除く)	「卒業論文・卒業研究作成支援月間」 論文作成の手順 テーマに沿った資料収集の仕方 データベースの使い方 他機関の利用について	
4	6/7~6/11 ①15:00~16:00 ②17:00~18:00	「コンピュータによる資料検索」 本学図書館蔵書検索 データベースの使い方	約60分
5	9/27~10/1 ①15:00~16:00 ②17:00~18:00	「卒業論文・卒業研究作成のための資料検索 最終確認編」 テーマに沿った資料の入手方法 データベースの使い方 他機関の利用について	約60分

### 本誌の表紙に使われた貴重書

*Essai sur la nature du commerce en général* Londres, 1755

リチャード・カンティヨン 『商業一般本質論』  
CANTILLON, Richard



リチャード・カンティヨン(1680-1734)はイギリスの経済学者です。1881年にウィリアム・スタンレー・ジェヴオンズによって再評価されるまで、英語圏では長い間忘れられた存在でした。アイルランドに生まれ、はじめロンドンで商業を営み、その後パリで銀行業に従事します。ジョン・ローの計画に乗じて莫大な財産を手に入れますが、54歳の時ロンドンで家に放火されて焼死しました。

本書は彼の死後1755年にパリで出版された初版本です。焼失を免れた本書の草稿は、ミラボーが所蔵していたものでした。そこに展開されている理論の中には、後代のフランソワ・ケネーによって代表される重農主義学説への萌芽を見ることができます。

カンティヨンはその経済思想をイギリスの経済学者たち、特にウィリアム・ペティから受け継いでいると言われます。その特有の生存費説的立場に基づく賃金理論において、彼は土地と労働との比例または同位を考え、価値の大きさが生産者に報酬として与えられる土地よりの生産量によって決定されるとする価値理論の支えとしました。また社会における貨幣の必要量を、総生産物とは区別されたものとしての純生産物を基準としてとらえ、貨幣の流通を資本の流通としてとらえる道を開いています。この考え方は、富を生活必需品に関する商品であると規定する従来の重商主義者とも鋭く対立するものでした。また、ケネーの『経済表』はその構想をカンティヨンから学んだとすることができます。

カンティヨンが経済諸事象の体系的研究にあたったこと、また貨幣数量と物価との関係を順序立てて説明した連続影響説や、近代利子説などの優れた業績を残したことを考慮すれば、ケネーやスミスたちに与えた影響力の強さからみても、彼の著書の持つ意義は高く評価されるべきものと思われる。

原寸 17.3X10.3cm

『洋書百選』(1972年本学図書館刊行)より抜粋、加筆